**萩ジオパーク**

2018年には、萩周辺の約1,100平方キロメートルのエリアが日本の国立ジオパークに指定され、全国43カ所のジオパークの一つとなった。これらのジオパークは、自然の保全、および持続可能な開発の促進と教育を目的としている。公園の一部として保存されている自然地域には、ごつごつとした断崖、印象的な岩の形成、および数千万年にわたってこの地域の景観を形成してきた地質学的・火山学的活動の他の証拠が含まれている。

萩地域は古くから火山活動が行われてきた地域である。現在の景観を形成した多くの噴火と火山の隆起によって、淡水や肥沃な土壌、漁場などといった必要資源の存在位置を決定された。日本海に面した川の三角州に建設されたこの都市は、3つの特徴的な地質学的活動によって形成された。1億年前から3千万年前にかけて、アムール海プレートの下でマグマが大量に発生した。20万年前から800万年かけて海底のマグマがゆっくりと出現した。200万年前から8800年前までは、萩周辺は島弧マグマによって形成されていた。

**萩ジオパークの見どころ**

萩城下町エリア

萩城下町も住民の暮らしも、何百万年も前に起こった地質学的出来事によって形作られてきた。萩城下町は、阿武川の三角州に築かれ、火山性の山から土砂が運ばれ、海が河口に砂を押し上げ、水に囲まれた三角形の土地ができた。その三角地の先にある岬、静木山と呼ばれる休火山があり、防御のしやすい場所に、1603年に毛利家が萩城を築いたのである。

萩焼と呼ばれる地元の焼き物は、地元の火山性花崗岩の組成に由来する独特の性質を持つ粘土で作られている。また、魚の生息地となっている海底の凹凸も火山の影響だ。そして、三角州の砂質でローム質の土壌は、1800年代後半から栽培されている萩地域の代表的な作物である夏蜜柑の栽培に適している。

Googleマップのリンクはこちら

笠山エリア

笠山は高さ112mの萩市で最も若い火山である。この山の歴史は、約1万1千年前、巨大な割れ目から溶岩が噴火し、高原が形成されたことに始まる。約8,800年前には、火砕片の噴火で山頂に火口と噴出円錐ができ、約7,000年前に海面が上昇して笠山は島となった。その後、時を経て、島は徐々に砂州によって本土に再接続された。笠山展望台からは山頂の火口を見ることができる。笠山は阿武地域の火山群である阿武火山群の一部で、いずれも単一の噴火によって形成されたものだ。

笠山の南麓には塩水の明神池がある。その近くの森の中には、岩だらけの林床の裂け目「風穴」があり、そこから冷たい空気が吹き出している。冬の間は、この裂け目の奥深くに濃くなった冷気が入り込み、暖かくなると密度が落ちて裂け目から流れ出し、このエリアの気温が下がる。

アクセス：JR東萩駅または萩バスセンターから「越ヶ浜バス停」（約20分）下車、徒歩約40分。萩バスセンターからタクシーで20分。

Googleマップリンク：こちら

須佐エリア

萩城下町の北東38km、須佐湾と江崎湾に挟まれた日本海に突き出ている岬が高山である。両湾ともに港が深く、海の幸、特にゴツゴツした火山性の海底に豊富に生育する海藻を餌とするイカの一種であるケンサキイカが有名だ。

須佐ホルンフェルスは、高山地区にある数多くの素晴らしい地質の一つだ。高山の東側の海には、泥岩と砂岩の層状化した高さ12mの美しい帯状の断崖が広がっている。この断崖は、約1,500万年前に海底の砂や泥が固まって石になり、火山活動によって隆起してできたものである。

アクセス： JR須佐駅からタクシーで約10分。

須佐ホルンフェルスのGoogleマップリンクはこちら

龍が通った道

「龍が通った道」は、その形が神話の生き物である龍に似ていることからその名がついた川の形を指す。全長約14kmのこの道は、30万～40万年前、現在の多摩川の谷間を流れる溶岩の大きなプールから形成された。その溶岩が流れ、龍の腹とも呼ばれる畳ヶ淵石畳や、六角形の石柱や柱状節理の龍鱗郷など、いくつかの優れた地理的特徴を生み出した。

アクセス：JR須佐駅からタクシーで約20分

畳ヶ淵Googleマップのリンクはこちら

龍麟郷Googleマップのリンクはこちら